

広島市教育委員会
教育長 糸山 隆 様

原水爆禁止広島県協議会	代表理事 高橋 信雄
広島県原爆被害者団体協議会	理事長 佐久間 邦彦
新日本婦人の会人広島県本部	会長 森 真理子
広島教育研究所	所長 佐藤 清隆
全広島教職員組合	執行委員長 小林 克巳
広島市教職員組合（全教）	執行委員長 藤中 茂
非核の政府を求める広島の会	常任世話人 金子 秀典
広島の文化の未来を考える教職員の会	代表 藤川 晴美
広島県平和委員会	代表理事 本藤 修

「平和教育プログラム」教材から「第五福竜丸」削除決定の撤回を求めます

広島市平和教育プログラムから広島市立中学校3年生の教材として、これまで採用してきた「第五福竜丸」の記述を削除し、新たな教材に差し替えることがあきらかになりました。

その理由を、「世界の被ばくの実態を確実に継承する学習内容になっていない」「プログラムに関する有識者会議で『福竜丸が被ばくした記述のみにとどまる』などの指摘を受けた。（中国新聞 2023.3.2）」と報道されています。新教材では代わりに「ビキニ環礁など世界の核実験被害地を地図で記す」とされています。

この削除の理由はまったく理解も納得もできないものです。「第五福竜丸事件」は全国で3200万筆を超える原水爆禁止署名運動に発展し、1955年の第1回原水爆禁止世界大会の成功、そして、2017年の核兵器禁止条約成立につながりました。また、「第五福竜丸事件」は、ヒロシマ・ナガサキで知られる熱線や爆風だけでなく、内部被ばくという核兵器のもたらす人体への影響を伝えるうえで非常に重要な意味を持ちます。「福竜丸が被ばくした記述のみにとどまる」というなら、内容を充実させればいいのではないのでしょうか。その努力なしに一方的な削除決定は、被ばくの実相を継承するという視点からも後退でしかありません。

また、広島市教育委員会の「平和教育プログラム改定会議 構成員発言概要」では、「第五福竜丸」に関する記載は下記の2か所です。

○「第五福竜丸の部分なのですが、単に被ばくしたということだけが載っています。さらに、指導案の方にも、被ばくした、しか書かれていません。生徒にとっては、そんなことがあったのかということがピンとくるのか、こないのか、よく分からないところがあります。そこで、当時の船の記録が残っていると思うのですが、指導案の方にも、そういった資料を少しでも載せておけば、授業をされる先生方にとってよいのかなと思います。もちろん本文に入ればよいのですが、難しいのであれば、補助資料として、指導資料の方に載せておいてほしいと思います。

（第2回平和教育プログラム改定会議 構成員発言内容概要 R3年2月19日）

○「第五福竜丸のことは歴史的にみると他のいろいろなことに影響を及ぼしたことなので、そういったことも入れながら、ということも検討していただきたいと思います」

（第2回平和教育プログラム改定会議 構成員発言内容概要 R3年2月19日）

ここには、「第五福竜丸」教材を発展させる側面からの提起がされているのであって、新しい教材への差し替えを求めていると受け止めることはできません。にもかかわらず、広島市教育委員会が、どのような検討経過を経て第五福竜丸の削除決定に至ったのかその審議過程は全く不明のままです。先日の「はだしのゲン」削除に続いての今回の決定には、ビキニ被害者のみばかりでなく、全国の多くの核兵器廃絶を願う人々から抗議の声が寄せられています。

以上のような理由から、今回の削除決定を撤回し、平和教育の充実のために、教材「第五福竜丸」が生かされるよう再検討を求めます。